

第3期 第3回 向日市子ども・子育て会議 会議録

○日 時 令和元年7月25日（木）午後1時30分から午後3時30分

○場 所 向日市役所 別館 第7会議室

○出席者 （出席委員14人）

安藤和彦委員（会長）、今福友恵委員、井上裕之委員、風谷千賀子委員、加原ゆり委員、川村宗己委員、田中久美子委員、田部千夏委員、築山剛委員、辻千佳委員、花安肇委員、藤井一郎委員、松下有紀委員、宮地健一委員
（50音順）

（事務局11人）

【市民サービス部】

水上市民サービス部長、川本市民サービス部副部長、長谷川和代障がい者支援課長、柴田健康推進課長、長谷川琢子育て支援課長、紺野子育て支援課主幹、前田子育て支援課主査

【教育部】

小賀野教育部長、鹿島生涯学習課長、野田学校教育課担当課長

【株式会社 名豊】

池上 真一

○欠席者 （委員 6 人）

北口勝也委員、高山紀公子委員、津田陽委員、福井千津委員、余根田聡委員、和田泰徳委員
（50音順）

○傍聴者 なし

○議題 (1)第2期向日市子ども・子育て支援事業計画策定について

・アンケート調査の結果報告

・第2期向日市子ども・子育て支援事業計画の骨子案

(2)幼児教育・保育無償化について

(3)令和元年度 子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について

(4)保育所等の入所状況と待機児童について

（ 議 事 内 容 ）

議題1 第2期向日市子ども・子育て支援事業計画策定について	
事務局	資料1、2を用いて、アンケート調査の結果報告と第2期向日市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）について説明 (アンケート調査の結果報告と計画の骨子案についての主な質疑・意見)

委員	療育についてのアンケートはどの計画におけるアンケートで詳細に実施するのか。保護者や子どもを療育施設へとつなげる仕組みについて一度考えてほしい。
事務局	障がい者福祉計画における障がい者実態調査で、子どもを含めた様々なサービスの利用状況や今後の利用意向について聞く。令和元年度に実施する。児童発達支援サービスの利用者は少しずつ増えている。新規の利用を希望される方に優先的にサービスを提供する。
事務局	療育へのつなぎ方については、本市で行う乳幼児健診の後、療育面で心配に思われている保護者に対して、自宅や保育園、幼稚園に訪問をして、勧めている。
委員	療育へつなぐ際、医療関係者の判断の中で、子どもについての情報を集める意識が低いのではないかと。療育問題を抱える子どもの情報を集めて、分析をしてから療育施設へつなげてほしい。情報を集めるという時間、人材やシステムについて考える必要がある。
委員	計画の中に保育士の質の向上について明記してほしい。また、公園の立地場所といった向日市だけにとどまらない情報等を他市と連携して共有できないか。向日市だけで完結させずに、子育てマップなどを作成してほしい。
会長	事業計画の全体像として、向日市地域福祉計画が入っている。地域福祉計画の地域を生活圏として受け止めていくという横断的な視点を子ども・子育て支援事業計画の中に入れていただきたい。
委員	預かり保育といった、保護者のニーズに合わせてくれるのはありがたいと思う反面、職員の方に負担がかかっているとしたら、保護者としては保育の質が下がるのではないかと不安がある。幼児教育の無償化により、財源が浮くのであれば負担が重くなっている職員の方々へ回せないのか。
委員	向日が丘特別支援学校の改築に併せて、就学前児童も含めて一度乙訓圏域全体で、受け入れ人数を増やしていくよう市として要望してほしい。
事務局	単に改築だけではなく、乙訓圏域で不足しているものを福祉ゾーンとして集約していこうという考えを長岡京市も持っている。障がいの分野というのは二市一町の長岡京市・大山崎町・向日市で協調して実施しているので、その考えについては共有しているので、長岡京市を通じて京都府の方には伝えてもらっている。具体的な内容として、不足している児童入所機能、児童発達支援センター・地域生活支援拠点、福祉の人材育成機能、障がい者の就労支援といったものが挙げられる。

委員	「子どもの豊かな感性を育む教育・保育の推進」における、ブックスタート事業、文化活動推進事業について、幼児教育の充実・質の向上の方向でもう少し何か広報で記載した方が良いのではないか。
委員	幼児教育の質を考える施策を設けてほしい。乳幼児の子育てを支援するために、母親を啓発・教育する、さらには経験してもらうという視点の施設が必要である。子育てにおける経験を促し、サポートするような行政支援がほしい。
委員	子育ては思いどおりにならないということを、子育てをして初めて知った。本当はどれだけ我慢しなければいけないことが多いとか、「子育てとはこういうものである」ということが分かるようになればよい。 計画の骨子をみても、向日市ならではの強みや特徴があまり見えてこない。向日市ならではの強みとして、例えば、竹林などの自然と触れ合う場所、五塚原古墳などの歴史を学ぶ場所が挙げられるが、そういったところがぱっと分かるのであれば、「向日市で良かったな」と思ってもらえるのではないかなと思う。
会長	このアンケートを作るときに、国が作った調査項目、京都府が作った調査項目、向日市が作った調査項目、そこでどれだけ特徴を出すかということに対して事務局はつらかったと思う。確かに向日市ならではのものができれば一番うれしいが、それだけ取り残されている問題が全国共通化しているというようにも思える。
議題 2 幼児教育・保育無償化について	
事務局	資料 3 に基づき、議題 2 について説明 (幼児教育・保育無償化についての主な質疑・意見)
委員	無償化という状況は幼児教育に対する無償化であり、幼児教育とは何かという質の担保をどのようにしていくのかということが必要である。
会長	「無償化」と言っているが支出が保護者から出るということはないのか。
事務局	副食費については保護者の方が負担をする。
会長	「無償化」という言葉だけが広がっていて、何がどうなっているのかわからず、「無償化」は無料とされていると思う。

委員	無償化は保育料に対して無償化すること。非常に大事なことは、子どもが健全に成長するシステムとして機能するのかどうかということである。幼児教育という質の担保ができないのであれば、幼児教育という子どもの健全な成長ということを軸として、もう一度無償化について考えなければならない。
委員	幼稚園と保育園の教育の格差はあってはならないと思う。保育所の中でも、民間と公立保育園の中で教育格差が出てこないようしっかり調整していただきたい。
議題 3 令和元年度 子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について 議題 4 保育所等の入所状況と待機児童について	
事務局	資料 4・5 に基づき、事務局から説明 (今年度の子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況、新設される保育所についての質疑・意見)
委員	新しくできる保育園（令和二年度開園予定 仮称 かおりのほなほいくえん）には病児保育もあるとのことだが、病院の先生はどこで対応してくれるのか。
事務局	新設される保育園の前の道を挟んで、診療所が開設予定で、その 2 階に病児施設ができる。
委員	資料 4 の 5 番の「第 2・第 4 留守家庭児童会増築事業」について、第 2・第 4 留守家庭児童会の人数が多くなってきて増築ということだが、そもそも向日市内で自由に学校が選べる中で、第 2・第 4 が増えているのであれば、地区ごとにきちんと定めていけば校舎内に収まると思うので、増築するコスト・時間がもったいないのではないかな。
事務局	確かにその関係で 4 向小が増えている部分があるが、それよりもはるかに北部開発で圧倒的に児童数が増えていくことによって、増築するという主旨で行うため、ご理解いただきたい。 今後の計画策定スケジュールを説明。会議の日程については会長と調整し、委員へお知らせする。 以 上